

勇払場所の発展と安泰を記念した地藏尊

# 17 勇払先駆者墓碑及び勇払地蔵尊

所在地：苫小牧市字勇払 132 番地の 38 (勇払開拓史跡公園内)



勇払開拓史跡公園の一面に地藏尊がまつられています。地藏尊の背面に刻まれている文字から、安政 3 (1856) 年箱館奉行から勇払場所の最高位に命ぜられた鈴木歳郎源重礼が建立したことがわかります。また、敷地内の開拓移住隊士の墓には、藍栽培に成功した箱館奉行の役人で歳郎の父である鈴木庄助と歳郎の妻、香の合同墓碑があります。2人は文久 3 (1863) 年に死亡し、鈴木歳郎によって墓石が建立されています。

これらのことから地藏尊は、父と妻の弔い、勇払場所一帯の産業発展、人々の生活の安泰の祈念から、鈴木歳郎によって造られたものと考えられています。

写真の解説

1 地藏尊 2 地藏尊外観

樽前山を御神体とする遥拝所

# 18 樽前樽前山神社奉納品

所在地：苫小牧市字樽前 101 番地の 1



樽前山神社は明治 37 (1904) 年 9 月、樽前山を御神体とする樽前山神社遥拝所として伊藤仙太郎が所有していた土地に作られました。大正 7 (1918) 年 9 月改築し、昭和 40 (1965) 年 9 月現在の場所に新社殿を造営したとされています。現在、確認されている奉納品や棟札からは神社開設からの歴史をうかがうことができます。

\*1 遥拝所 (ようはいじよ) 遠く離れたところから神仏を拜むために設けられた場所

\*2 棟札 (むなふだ) 建築物の造営や修復の際に、その建物の由緒や建築関係などを記した札のこと

No.	奉納品名	年代	備考
1	紐鏡	不明	青銅製
2	絵馬「馬」	不明	板絵墨画
3	絵馬「馬」	明治37(1904)年	紙木墨画
4	手水鉢	不明	凝灰岩製 明治林業奉納
5	棟札「樽前山神社遥拝所」	明治37(1904)年	外崎晋 黒白
6	棟札「樽前山神社」	大正7(1918)年	